

情  
韻  
絕  
倫  
貴

^13  
3852  
1





門へ13  
號3852



# 情競傾城嵩

編前

坂東秀佳作  
哥川國安画  
仙雀堂販  
丙戌春



古き天の遊行女と記のこれ今世の遊女もあや元何に寄て遊女遊君の  
名ありや詩の漢の遊女在るは是れ因て号しやされば古れ余風  
今不残して編茶茶屋に編茶を納し土まの船か場を土ま馬と  
りて昔昔はさやあひの捨詞多し且家の通り詞又近世はうりかをそ  
まもりし其なほいれせうを庄八さるど唱めさせうといのまも  
まもりし誰えを誰せを呼らるるせらるど唯古今もろるるなりと  
いさぢの二道のいさぢの情状をかきりて秀佳子爰に播洲傾城が  
嵩の古吏をのせり山城の女郎が測筑前の君が畑も播洲の舞子の  
濱もどまのなを里まのらぐの古跡るんかといふ而已此一冊の  
及古たふの捨るかきを籠へるも助けかき洗ひ橋を掃ふは作者の  
東ひはうや仲の町と云爾わげや町よあま五街遊人調布識

頁成情

一





万葉集第九の歌

金かねのの人ひとのの夜よ中ちゆうああままのの身みをを

たたままままららんんだだ

出いていああん

右遊女みぎうぶよめ 杖つゑのの珠たま名な

仙せん筈はず四よ丁ぢやう

甚しん四よ問もん屋や

近江屋おうみや兵衛べゑ

体てい屋や



男おとこ連づら驚おどろ此こ長なが吉きち

寶曆ほうりき印いん本ほん遊あそ女ぶ百ひゃく人にん一いち首しゆ





美都仙女香  
代四十八文 松平氏

袖乃梅  
萬小間物下駄傘屋  
下結  
傘

高橋  
太夫が  
かみ

五郎  
井戸屋



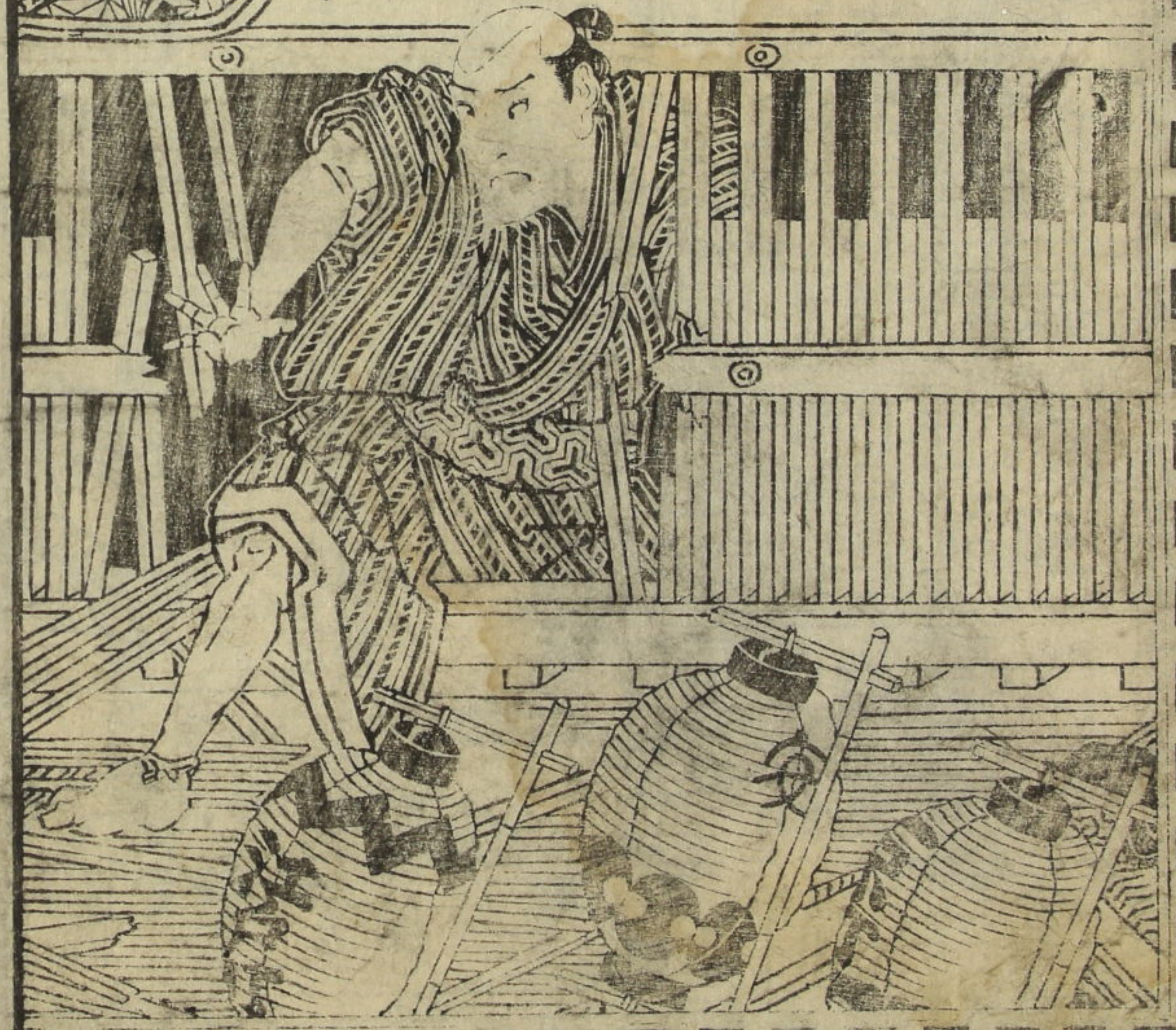
男連  
腕の喜右衛門

男連  
糸長  
十兵衛



結城の家  
中  
蛇塚蛇五  
右衛門

室の津乃  
傾城  
芙蓉



後撰集の歌

雑色  
何れも  
あはれ  
身と  
は  
あまきの  
ま  
おかり  
お

右遊女  
鳥飼の  
立野

室の津の  
傾城  
高橋







前髪男連  
 三右衛門  
 金平男連  
 弥左衛門



仁和堂  
 小舟馬場

遊女百人一首  
 古今集第八の歌  
 今どふんてけあめあまは  
 あまの別の想い  
 右遊女  
 江口の白女

男連  
 奴次兵衛











































伊勢書

國安画坂東志うる作



Handwritten text in the upper left corner of the illustration, including names like '甘みゆき' and 'うらみゆき'.

友道工筆

御免日光御參詣供奉御役人附 横本 袋入全一冊

御免江戸曆開板所 毎年十月下旬より賣下り申す

新日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋鉦形紹真筆

撰新女古状捕園生竹 大太半 西品出来 高井蘭山編撰

早操日光道中記 一枚摺 日光道中記 高井蘭山編撰

子供節用集 全三冊 婦人任りし名作を採りて

御家流女用文色紙染 全冊 婦人任りし名作を採りて

撰笠翁 玄同放言 初編二編共六冊 第三編三冊 曲亭馬琴著

右三編三冊は笠翁の著し初編の初は笠翁の著し



還魂紙料

古画八二冊出棧

柳亭種彦隨筆

是より百年前名寄かり故物所傳身の類俳諧の句解常言の然るべき後集冊  
を引用して考証附一巻雅客の刀を乞ふ書小のわらわど雨乃賦六巻を山崎

豪家福塵劫記全一冊

改正傍補後手ひらりして此一本こそ其法  
の利ありきるべきに其法一の改まるり

廣益懷中早割大全

小本のりされし書中より初巻のりてわや  
すのりて初巻のりてわや

新形染彩目植花手引系

前編出来は其のりてわや  
後編編刻わのりてわや

芝居似顔早稽古

後編全一冊十返舎无編  
町川豊国画

八文舎自笑評  
三箇津  
藝品定

後編全一冊  
想役者巻評のせえ解はあへり  
身入所傳相たるは國年中その付程言評判細  
お撰次文法後集のりてわや

東都書林

油問翠橋之西詰  
仙鶴堂  
鶴屋喜右衛門版

油問翠橋之西詰

仙鶴堂  
鶴屋喜右衛門版



